



海外大学進学事情

～啓発とサポート体制について～

広島なぎさ中学校・高等学校
教諭 神鳥 静

はじめに

本校では四つの教育目標の一つである「国際性の涵養」を目指し、交換留学や海外研修旅行、1年を通して行われる様々な国の中高生・大学生との国際交流行事など、特徴ある教育プログラムを展開しています。このようなプログラムを経験した生徒の中には、高校を卒業後、海外の大学へ進学をしたいと希望する生徒もいます。海外大学への進路を希望する生徒をしっかりサポートし、卒業後の動向を把握できるよう、平成25年度から進路部海外進路担当となり、様々な国への進路を考える生徒と関わってきました。

グローバル化が進む社会で、海外大学出身者の就職先も門戸がかなり広くなり、海外大学を卒業した後の進路に対する不安感も和らいできました。また、国内大学と同じように海外大学への進学を視野に入れる生徒や保護者が増えてきています。

海外留学と海外進学の違い

海外留学とは、日本の学校に在籍している間に、海外の学校へ数ヶ月から1年間勉強をしに行くことを意味します。一方、海外進学とは、日本の教育機関には籍を置かず、海外の学校や大学に入学し、卒業を目指すことと位置づけています。留学中は、日本の学校を休学して海外へ行き、帰国してから日本で在籍した学校を卒業することになります。海外進学をした場合、在籍している学校は海外の学校ですので、勉強や環境に馴染めず、途中で辞めて日本に帰国してしまった場合、

中途退学となります。そうならないためにも、きちんと卒業できるように、覚悟を持って海外進学に臨ませるようにしています。



大学での授業(韓国・延世大学)

海外大学進学に向けたカウンセリング

海外大学への進学に興味を示している生徒にはカウンセリングを行い、例えば、以下のような内容について尋ねます。

- ・渡航先(行きたい国や都市)
- ・目指す大学(海外、国内とも)
- ・何を勉強したいか
- ・卒業後どんな職業につきたいか
- ・将来どこで働きたいか、どこで生活したいか
- ・どうして海外大学なのか
- ・進学するために今後どうしようと思っているか
- ・これまでに海外渡航経験はあるか

そのほか、家族の意見、現在の英語力など、海外進学に必要な内容について細かく質問します。

生徒の思いにしっかり耳を傾け、どれほど情熱を持って考えているか、聞き取ります。ただ単に海外に行きたい、外国に住んでみたい、英語ができるようになりたい、という理由ではなく、何を勉強しに行くのか、どうしてそれを海外でやりたいのか、それがどう将来に

結びついていくのか、しっかりと述べさせます。日本での進学が難しそうだから海外へ、という安易な考えでは到底続かないからです。

もちろん、海外大学進学においても、高校での成績の平均評定が出願時に必要です。英語力だけでなく、高校卒業までに学習する幅広い知識がなければ、海外大学に進学してからも結局ついていけないからです。国内・海外問わず、高校でしっかり勉強することは大学進学の必須条件です。

海外大学進学に必要な英語力

ほとんどの海外大学進学の場合、英語力を証明する書類の提出を求められます。大抵の場合、TOEFLまたはIELTSのスコアが必要ですが、TOEICのスコアを考慮してくれることもあります。TOEFLやIELTSは受験日が限られており、計画的に対策を考えていかなければなりません。そのため、どのぐらいのスコアが取得できそうか、まず自分自身で目標を立てさせます。受験料が高額のため、保護者の理解も必要です。受験の手続きはもちろん、英語力向上についてもサポートが欠かせません。

TOEFLやIELTSで生徒が苦心するのがライティングです。グラフや図などを説明したり、自分の意見を書いたり、自ら表現する力を問われます。また、リスニングで聴いた内容と、長文から読み取った内容を合わせて、自分の考えをまとめる問題など、「読む」「聞く」「書く」の3技能を統合した問題も出題されます。

さらに、TOEFLはiBT(Internet-Based Test)が主流になってきていますので、パソコンの画面で長文を読むことに慣れておく必要があります。ライティングはパソコンで打ち込みますので、生徒にとっては高いハードルになります。こうしたことも踏まえ、本校では多様な英語力の向上を目指し、定期的にライティングの指導をしたり、リーディングやリスニングの教材となるようなウェブサイトやアプリなどを紹介して、生徒をサポートしています。

グローバルセミナー

本校では海外進学に興味のある生徒・保護者を対象に、「グローバルセミナー」という海外進学啓発セミナーを毎年12月に行っています。平成28年度からは留学エージェントから講師を招き、台湾やアメリカ、オーストラリアなどの進学地域ごとに専門家の立場からも講演していただいています。

「お試し留学」

毎年、春季休業中にオーストラリアへの「お試し留学」を実施しています。このプログラムは、英語学習が目的ではなく、現地での生活を体験し、将来海外に進学してやっていけそうかどうか、海外進学を目指す上での覚悟を持ってもらうことが目的です。滞在中には、クイーンズランド大学や、TAFE(州立職業訓練専門学校)の見学もプログラムに入れており、施設等を見学することによって海外進学へのイメージを膨らませることができるように工夫しています。

卒業生の進路実績

平成25年から海外進学のサポートを始め、これまでにアメリカ、イギリス、オーストラリア、韓国、台湾、ハンガリーに計12名の生徒が進学しました。

ハンガリーはセゲド大学医学部に、台湾は元智大学情報工学科にというように、文系だけでなく、理系の生徒にも海外大学進学を実現した生徒がいます。



友人たちと活動(台湾・元智大学)

海外進路サポートの例

Aさんは私が本校に赴任した最初の年に出会った生徒です。そのときAさんは6年生(高校3年生)で、新学期直前の春休みに「お試し留学」に参加したところでした。オーストラリアに行ったAさんは、そこで多くの学生と出会ったことで視野が広がり、海外大学進学への気持ちが強まっていました。私はたまたま、Aさんのクラスの副担任になり、また、オーストラリアでの教員経験があったことから、Aさんの相談にのるようになりました。海外進学に関心を持ちながらも、Aさんは6年生の秋までは国内大学への進学も考えていました。けれども、将来は英語を使って人と関わる仕事をしたいという夢を実現するために、最終的に海外の大学に進学することを決断しました。カウンセリ

ングをするうちに、Aさんがホテルに関心を持っていることがわかったため、オーストラリアのクイーンズランド大学で、International Hotel and Tourism Management(国際ホテル観光マネジメント)を学んでどうかと提案しました。Aさんは、自分でもインターネット等を駆使して大学について調べ、家族とも相談した結果、クイーンズランド大学進学という目標を固めました。その後IELTSを3回受験し、大学附属の語学学校の入学条件を満たしたAさんは、平成26年5月から12月まで語学学校で学んだ後、見事平成27年2月クイーンズランド大学に入学、平成29年12月に卒業して、昨年4月から東京のホテルに就職して活躍しています。大学在学中に帰国した際には学校を訪ねてくれ、大学での勉強や生活の様子などを教えてくれました。それまでの努力を褒め、卒業までに何をしなければならぬか、就職活動にどう取り組んでいかなど、具体的に話しつつ励ましました。高校在学中から海外進学後までサポートを続けることが生徒の進路実現につながることを実感した一例です。

今後に向けて

海外大学進学を目指す中で、生徒が自立し、責任感と向上心を持って成長していく姿を見られることを嬉しく思っています。ますますグローバル化が進む社会に対応し、異なる他者と協働して社会に貢献できる生徒を育てるためにも、この5年間で確立した海外進路担当の業務内容を改善しながら、海外進学サポートを継続していきたいと思っています。